

マダニ刺虫症、日本紅斑熱における当院で経験した 症例からの地域へ向けた取り組み

沼隈病院 看護部

住田貴臣

日本紅斑熱は 1984 年に初めての報告、広島県では 1999 年が初。

死亡例は重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) より少ないが年間数例の報告がある。

当院においてもマダニに咬まれ来院する患者が多く、自分で引きちぎり発症したケースや、咬まれてから数日経って発熱を機に受診するケースも見られた。

2017 年より出前講座を行いマダニに対する情報提供、予防法、咬まれた時の対処方法等の啓蒙活動を行ってきた。

その結果、2016 年は 22 例うち紅斑熱 2 名、2017 年は 42 例うち紅斑熱 5 名、2018 年 7 月 28 日現在、28 例うち紅斑熱 0 名と件数は増加し、「出前講座を聞いて来院した。マダニに咬まれたかもしれない」と来院される患者も見られるようになった。

今後もマダニに咬まれ来院する患者の増加が予想されるが、早い処置と正しい治療により重症例を少なくしていく為には正しい対応で早期に受診して頂く事が必要。その為にも地域住民への情報提供が今後も重要である。

マダニ刺虫症、日本紅斑熱における当院で経験した症例
からの地域へ向けた取り組み



沼隈病院 看護部
住田貴臣



- 日本紅斑熱は1984年に初めての報告、
広島県では1999年が初。
- 死亡例は(SFTS)重症熱性血小板減少症候
群よりは少ないが年間数例の報告がある。

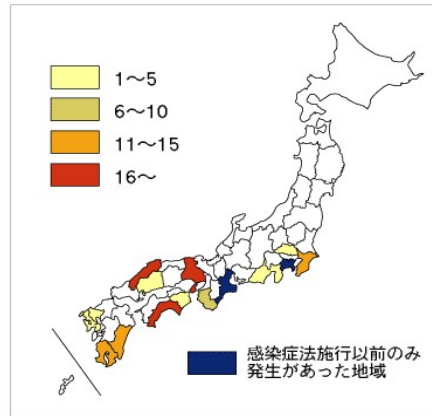


図2. 日本紅斑熱の都道府県別発生数（'99～01）



図1. 広島県における日本紅斑熱患者発生地域と患者数
(1999～2009年)

IASR

Infectious Agents Surveillance Report



- 広島県は全国でもマダニが多く、特に福山、尾道、三原、竹原が多い。沼隈地域も例外ではなくマダニに咬まれ来院する患者は多い。



- 当院においてもマダニに咬まれ来院する患者が多く、自分で引きちぎり日本紅斑熱を発症したケースや、咬まれてから数日経って発熱を機に受診するケースも見られた。



咬まれたマダニを自分で取る、引きちぎる等の処置は、マダニの頭が残る。

そこからリケッチアウイルス等が体内に侵入し日本紅斑熱を発症する。



- そういった事例を少なくする事を目的とし、2017年より地域に向けての医療関連の講座を利用しマダニに対する情報提供、予防法、咬まれた時の対処方法等の啓蒙活動を行ってきた。

当院におけるマダニ虫刺症来院患者数及び日本紅斑熱確定患者数

	来院数	日本紅斑熱	SFTS
2016年	22例	2名	0名
2017年	42例	5名	0名
2018年(10/27現在)	48例	2名	0名

2018年度の来院患者内訳

マダニに咬まれた状態で来院は32例

マダニを持参(頭有り)14例

自己で引きちぎる対応は0例

日本紅斑熱確定2例

平成 年 月 日
マダニ等、刺虫症報告書（既を含む）
 種類： ☐マダニ ☐蜂 ☐ムカデ ☐毛虫 ☐その他（ ）
 報告者：氏名 印 所属（ ）
 発生場所： ☐沼隈病院外来 ☐沼隈病院病棟（ 号室） ☐常石医院

ID番号	
患者氏名	歳 男 ・ 女
生年月日	☐ 明治 月 ☐ 大正 日 ☐ 昭和 年 ☐ 平成 年 月 日
住所	
山入等歴	入山等歴：あり ☐ （ ）なし ☐ 平成 年 月 日 （※例：山掃除・畑等の仕事など）
虫の有無	あり ☐ なし ☐ 不明 ☐
刺し口の有無	あり ☐ なし ☐ 不明 ☐
臨床経過その他	※臨床症状※ 体温（ ℃） 皮疹（ ） 消化管症状（ ） 血液データ、その他（ ） 臨床経過 処方内容：

マダニの成長ステージ



フタトゲチマダニ

宿主上で吸血源の動物が通りかかるのを待ち伏せる

フタトゲチマダニが調査で採集された時期
4月～11月



マダニのライフサイクルと吸血源となる哺乳類



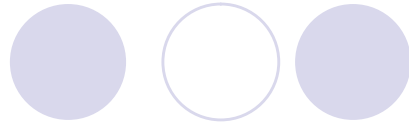
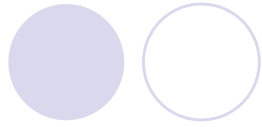
- 「出前講座を聞いて来院した。マダニに咬まれたかもしれない」と、来院される患者も見られるようになった。



- しかし、日本紅斑熱の発生は依然としてあり、いずれもマダニに咬まれた事に気付かずに潜伏期を経ての発症である。



- 今後もマダニに咬まれ来院する患者の増加が予想されるが、早い処置と正しい治療により重症例を少なくしていく為には正しい対応で早期に受診して頂く事が必要。
その為にも地域住民への情報提供が今後も重要であり継続していきたい。



● ご清聴

● ありがとう

● ございました

